

ホルムスク（真岡は1905年日本領有前の「マウカ」と呼ばれていたのをその響きから「真岡」と名付けられた）への2時間の道程を程良く揺られ、途中切土法面が切りっぱなしの状態です。いつ法面崩壊が起きてもおかしくない様相に法面保護対策工は...??

「日本との違いを感じた」。



ホルムスクでは「9人の乙女の悲劇」真岡郵便局の跡地に現在はアパートが建てられている。終戦時にあと数日早く日ソ停戦条約が締結されていたら...と残念で稚内公園の「9人の乙女の碑」を思い出し目頭があつくなった。



公園から望むホルムスク港



老朽化が進む港湾施設



ミッションに参加した宗建会メンバー

幸子さんの話によると、ホルムスクは、日本統治時代に「王子製紙の街」と言われ、現在も当時の面影をそのままに「旧王子製紙 真岡工場」が残っており、一部の施設については、現役で稼働していると説明してくれた。

港にも沢山の木材が集積されており、「なるほどな」と思った。

サハリン全土で言えることだが、日本人が作ったインフラが、いまだ現役で残っていることを誇りに思うと共に、この先の社会基盤整備の再構築がサハリンにとって早急の課題であると感じさせられた。



旧王子製紙 真岡工場



写真右上のホルムスク駅迄続く停車中の貨物列車（長い！）



ホルムスク市内の博物館
お世辞にも見るべき物が無い
(お約束なのか、魚や小動物の
ホルマリン漬けがやっぱりあった。)



移動に使用したバス。(サンタリゾートホテル所有) 乗り心地は・・・



レストラン「ホルムスク」にて昼食を取り、13時00分、ユジノサハリンスクへ向けバスは出発した。

14時40分、ユジノ市街にある「サヒンセンター」に到着した。ここには「サハリン日本センター」が入居している。他にも日米の企業などが入居している、とのこと。



サヒンセンター



日本センターはサヒンセンターの2階にある。

日本センターの受付嬢



今回の参加人数では、「みちのくビル」に入居している「北海道事務所」に入りきらないため、「日本センター」内の会議室を利用する事にした。

沓澤所長が、わざわざ説明資料を揃えてくれて、丁寧にサハリンの現状やワッコルの活躍ぶりなどを説明してくれた。サハリン事務所の業務内容としては、道行政の推進に必要な州行政府等との連絡及び調整に関する事。友好交流事業への支援及び協力に関する事。経済交流に係る調査及び支援に関する事。各種情報の収集及び提供並びに北海道の情報発信に関する事。その他ロシア連邦極東地域との交流に関する事。との説明を受けた。



北海道事務所 沓澤所長



真剣にメモを取る参加者

16時00分、サハリン州郷土博物館(旧樺太庁博物館)へ向かう。

この建物は、日本統治期の建造物の中で、最も著名でかつ保存状態の良好なもののひとつである。

しかし、建物裏側の損傷は激しく、至るところで基礎や壁が損傷していた。

博物館の前庭では、全面改修と言っても良いほどの工事が盛んに行われていた。

この工事は、日本の新聞記事にも取り上げられていたので、ご存知の方も多いと思うが、現場監督は女性である。来春には綺麗な庭へと生まれ変わるだろう。



サハリン州郷土博物館



工事中の前庭